

一

出典 内山真「睡眠のはなし 快眠のためのヒント」(中央公論新社 2014年)

「睡眠」が人の意志では制御できないことを述べた上で、「睡眠」が身体休息時に脳の活動を休養させるシステムであることを説明した文章です。易しい文章なので、設問自体も解答しやすかったと思います。

問1【漢字の書き取り問題】(解答番号は 1 ~ 7)

a 貢献 b 網羅 c 余暇 d 後悔 e 獲得 f 脊椎 g 老廃物

網羅・脊椎はやや難しいですが、その他は頻出問題です。問題は文脈を押さえ、書き取り練習をしていれば、「確実」に得点できます。日頃から練習をしておきましょう。全問正答は全受験者の3%でした。

問2【空欄補充問題・前後の文脈を把握する】(解答番号は 8)

空欄 ア は前行にある「調節機構との闘い」がヒントです。正答は③です。正答率は75%でした。

問3【空欄補充問題・前後の文脈を把握する】(解答番号は 9)

空欄 イ は、変温動物との対比された内容が入ります。「外気温で活動できない」ことが書かれている個所に注目すれば、正答は④です。正答率は85%でした。

問4【空欄補充問題・前後の文脈を把握する】(解答番号は 10)

空欄 ウ は、眠くならない人のことを記している個所であることを押さえる必要があります。正答は⑥です。正答率は78%でした。

問5【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は 11)

正答は③です。傍線部 A の直後にその理由が記されています。正答率は88%で、よくできていました。

問6【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は 12)

正答は③です。傍線部 B の段落を押さえれば解答は明らかです。正答率は70%でした。

問7【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は 13)

傍線部 C は、それまでの内容を含んでいます。つまり人がどのようにして睡眠と闘ってきたか押さえる必要があります。正答は③です。②を選択した受験生が目立ちました。正答率は65%でした。

問8【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は 14)

傍線部 D の説明は、傍線部 D を含む節の最後の段落内容を押さえる必要があります。正答は②です。正答率は74%でした。

問9【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は 15)

傍線部 E を含む段落を押さえる必要があります。正答は③です。正答率は77%でした。

問10【小見出し】(解答番号は 16)

正答は⑤です。正答率は23%と受験生には易しかったようです。

問11【小見出し】（解答番号は17）

本節では、なぜ引きこもるかということを目的に書かれているので、正答は①、正答率は22%です。

問12【内容合致問題】（解答番号は18・19）

正答は④と⑧です。完全正答率は3%でした。各選択肢の間違いの個所を示しておきます。①「三〇年前から」、②「レム睡眠の仕組みを解明した」、③「睡眠を支配した未来であっても」、⑤「人間が知恵と技術で克服した睡眠」、⑥「睡眠が短くても休息に見たい生活になる」、⑦「地球上の食料不足を招くことになった」、以上になります。試験時間もありますが、本文内容を確認しつつ、解答するようにしましょう。



出典 會田雄次「日本の風土と文化」（角川書店 1980年）

ルネサンス研究を専門とする歴史学者が書いた日本文化論です。本文はやや長いですが、日本人を主題としており難解な表現もありませんので、文意を掴むのは難しくないはずです。

問1【漢字の書き取り・読みの問題】（解答番号は20～25）

a 焦土、b 困苦、c 三々五々、d 豪華、e ていとん、f 父祖が正答で、全問正答者は全受験生の1.3%でした。簡単な漢字ながら「三々五々」が出来ませんでした。

問2【空欄補充・前後の文脈から適語を選ぶ】（解答番号は26・27）

空欄 **I** は直後の「社会的に健康な方向へ」が、空欄 **II** は直前の「古いという言葉が、悪い、だめになった」がヒントになるでしょう。正答は **I** が⑨、**II** が⑧で、正答率はそれぞれ26、73%でした。

問3【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は28）

傍線部Aの次の段落をよく読めば正答は③だとすぐわかるはずです。正答率は77%でした。

問4【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は29）

傍線部Bの直前及び2つ前の文をよく読めば正答は②だと導けます。正答率は36%でした。

問5【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は30）

傍線部Cの直後の文と直前の段落をよく読みましょう。正答は⑤で、正答率は68%でした。

問6【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は31）

執着心が強くなったことは4つ後の段落に書かれており、この段落の最後の一文がヒントになります。正答は⑤です。全受験者の52%が③を選択していましたが、「反動が起きた」が本文の内容に相違します。正答率はわずか5%でした。

問7【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は32）

直前の段落をよく読めば正答が得られるはずです。正答は③で、正答率は39%でした。

問8【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は **33**）

同じ段落の最後から3番目の文に気づけば容易に正答できるはずです。正答は①で、正答率は58%でした。

問9【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は **34**）

傍線部**G**の直後の一文を読めば正答が⑥であることは明らかでしょう。正答率は73%でした。

問10【指示語の内容を考える問題】（解答番号は **35**）

1つ前の段落をよく読みましょう。そこに正答の④が書かれています。正答率は33%でした。

問11【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は **36**）

3つ前の段落を丹念に読みさえすれば正答は⑥であると導けます。正答率は34%でした。

問12【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は **37**）

1つ前の段落を十分に読み込めば正答が①だと容易にわかります。正答率は30%でした。

問13【内容を理解して小見出しを選択する問題】（解答番号は **38**）

正答は⑦ですが、正答者はいませんでした。この節で著者が主張しているのはヨーロッパと異なり日本では固有文化が少しも伝承されていないという点です。③と④を選択する誤答が目立ちました。「古文化財に対する尊重」を小見出しにすると日本人が古文化財を実際に尊重しているのかそれともこれから尊重すべきなのかが不明確です。また、物資の蓄積の観念を欠いていることと「物資の蓄積を欠く観念」は異なります。

問14【内容合致問題】（解答番号は **39**・**40**）

正答は⑦と⑨で完全正答率は10%でした。①や③を選択している受験生が散見されましたが、①は「空襲を受けて」が、③は「農民人口に対して五～六%の比率にのぼる」が本文の内容と相違します。②は「『よい』という意味が込められており」が、④は「いずれも美術品として扱われる傾向が強まっていく」が不適切です。⑤は「ベルツ博士は…を見いだした」が、⑥は「無責任にも」が、また⑧は「客観的な意見の重要性に気づいた明治政府」が本文の内容と違っています。